

G-5 多賀城市八幡地区

2012年1月16日(月)

報告者名	菊地 暁	被調査者生年	① 生年未確認(女)
調査者名	菊地 暁	被調査者属性	① 農業、仙台市福田町出身

被調査者(主な聞き書きは話者①から)

*話者②(1916年生まれ、話者③の父)

*話者③(1936年生まれ、話者①の夫、G-1の話者①)(外出中のため遅れて参加)

*話者④(1943年生まれ)

震災の時

地震が来た時、ソニーの工場の近くにある畑で種まきをしようとして、散水用の井戸のポンプを確かめている最中だった。これは大変だと思い、裏道や近道を抜けて家に戻ってみると、門が倒れていて車では入れなかった。津波が来るとは夢にも思わなかった。

やがて、玄関の前から水が入ってきた。ウチは道路より少し高くなっていて、それだけでもけっこう違った。畳上86センチ浸水。井戸のフタにしている石板も流されてなくなった。小鶴新田の農協に勤めている息子(A氏)が別の板を洗って用意した。

ジッチャン(話者②)には震災後、家が片付くまで余所にいてもらっていた。畳を入れるまで歩くのが大変だった。畳を入れてから(足の不自由なジッチャンを)呼び戻した。

家屋田畑の回復

震災で傷んだ家屋の修繕はだいたい終わった。直したのは屋根と壁。屋根は台風の時も雨漏りしていたいへんだった。廊下はまだ直していない。

車がないと農作業に不便なので、軽トラを買った。とはいえ、一台で全部用足しするのは無理がある。トラクターは水をかぶったが部品交換してなんとか直った。

大場家の田んぼは4反ほど、八幡小学校の近くにある。塩水をかぶったので耕作できなかった。本当なら4月に代掻きして田植えをする。去年は2回ほど代掻きして水を入れ、塩分を流した。今年は田植えができると思う。

物置小屋

家の道路沿いにあった物置小屋を昨年12月に潰した。潰す時、ホウインさん(八幡神社神主のB氏)に来てもらい、中と周囲をお祓いしてもらった。お祓いしてもらおうと気分も良い。安心できる。大事なことだ。

物置小屋には味噌部屋もあった。3斗ぐらい入る(味噌などの)容器がたくさんあった。今回の震災を機に処分してしまった。

柚味噌は自家製で作っていた。柚をとって輪切りにして砂糖をまぶして火を通して、それを三ヶ月ほど置いてから、細切れにして味噌にまぜる。とても美味しい。味噌部屋には何ヶ月置いても腐らない。

白菜の漬け物も自家製。10日ぐらいたったもの（調査時にご馳走していただいた）。

被災した知人

ニュースで家族を亡くした子供を見ると涙が出る。ウチはそこまで被害がなくて良かったと思う。

ウチの人（話者③）が野蒜の野外センターに1年働きに出ていたの、野蒜と一緒に働いた知人がいた。震災後、軽トラックで訪ねてみると、家はあったがそのすぐ前が川のようになっていた。年賀状を送ってみたが戻ってこない。元気であるのかもしれない。

ウチの並びの端っこの家の息子さんが亡くなった。45号線沿いの建具屋さんの娘さんも亡くなった。ウチの孫と同年の22歳。その旦那と子供と3人が一度に亡くなった。携帯で「今、車で帰るから大丈夫」と言っていたらしいが、自動車からは津波の様子がよく分からなかったのだろう。産業道路を歩いて津波に巻き込まれてしまった。

昨日、鍋沼（の専能寺）に墓参りに行った。被害が凄かったところで、津波で倒れた墓石も直してもらった。亡くなった建具屋の娘さんは、そこにあるお母さんのお墓に入った。

契約講

契約講の帳面類（撮影させてもらう）は神棚に納めていたので津波でも無事だった。下の戸棚などに入れていたものはダメになった。帳面を収める箱は、C氏（鹿踊保存会長の父）が戦地から帰ってきた時に寄贈したもの。「昭和30年」という箱書きがある。

（契約講の葬祭関係の役割）穴掘等はなくなったが、今でも役に当たった4人が納骨まで手伝いをしている。当番が一回りすると、くじ引きで組み合わせをかえる。

（帳面類の箱に、お祭りの供物のメモがあったので質問）キチジは赤いお魚。9月9日の萩原神社のお祭りに用意する。今は時代が変わったので、大分省略している。

（昭和20年代から55年までの帳面が欠けていることについて質問）昔、箱ごとではなく、帳面だけを運んだことがあったので、その時になくなったのかもしれない。

昭和56年が第1回の移動契約（料理屋などの会場で開催する講の集まり）。それ以前は沖公民館で集まりを開いた。移動契約の25周年には、紀伊熊野に行った。話者④が前の講長さんを焚きつけて実現させた。1人分は契約講で負担、2人目以上は各家負担で、30人ぐらいでそろって出かけた。昨年の移動契約は、会場の予約も済んでいたのが、震災騒ぎで中止になった。今年は2年ぶりの開催。（津波で流された）萩原神社の再建費用の積み立てを第一議題にする予定。今度の総会で再建の目途を付けたい。普通通りのケヤキは値段が高くて集めるのが難しいらしいが、小さいものでもかまわないという話に決まれば、すぐに作りたい。

コバハラ講

古峯神社には毎年行く。宇都宮から鹿沼を歩いて行く。以前は代表者だけだったが、最近は行

ける人は実費で行くようになった。そのほうが大勢で楽しい。ツアーを頼んでいた旅行会社も津波で流された。固定電話は水没してしまっただけで、連絡がつかない。知人にこちらの携帯番号を伝えておいた。

地蔵講

地蔵講は宮内と一緒にいる。地蔵はもともと、仙台の大崎八幡あたりの石屋に作ってもらったもの。昔は国道45号線の三叉路の真ん中に地蔵があった。それを終戦後、アメリカ兵が、地蔵の手元に鐘の彫ってあるのを珍しがって、苦竹の今の自衛隊基地に持ち運んだ。兵舎に残されていたという。削り取られたらしく、地蔵の鐘の部分が今でも欠けている。

地蔵講は8月22日の5時頃から始まる。昔は当番の人がお地蔵様の前に敷物をしいて、漬物や飲み物などを人数分用意した。今はこのあたりでも餅米を作る農家がないので、餅米を買ってお餅を作ってお地蔵様にあげる。当番以外の方は、お賽銭と線香をもってお参りする。昔は一度にそろってお参りしたが、今は三々五々お参りしている。そのほうが若い人、勤めのある人もお参りしやすい。

どんと焼き

1月14日、八幡神社でどんと焼きをした。例年は夕方だが、今年は震災後の片付けも終わっておらず、火災等があるといけないので、午後3時頃から始めて早めに終えた。

カミサマについて (話者④談)

多賀城にも以前はカミサマ(拝み屋さん)がいた。

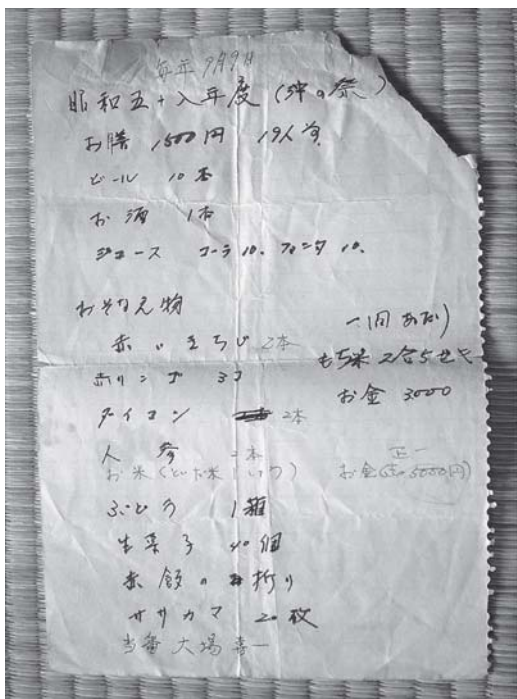


写真 帳面類の中に残された、萩原神社例祭の供物についてのメモ

シルバーに行って多賀城跡で草刈り(ボランティア)をしている際、神主さんがそこにある氏神を拝んでいるのを見た。尋ねてみると、城跡が文化財(史跡)として買収された時に山形に転出した人が、そのまま放置したものだという。それから4、5年たってその家族が皆体調不良になり、大学病院で検査してもらっても異常がない、親戚にカミサマに拝んでもらったらと勧められ、半信半疑で拝んでみてもらったところ、移転の時に氏神を置いてきたのではないかと告げられたらしい。確認すると確かにそのようなものがあった。そこで、こちらに来てお参りするようになり、それから3年になるという。カミサマから、その氏神さまの遺品を持ち帰って祀ればよいと勧められ、祀ってみると本当に体調が良くなったという。そういう話を聞くと、神様を祀る人の気持ちというのは大切だと思う。だから、萩原神社もなんとかしたいと思う。